

令和6年4月15日

生駒市長 小紫 雅史 様

生駒市環境マネジメントシステム推進会議
会長 矢田 千鶴子

環境監査報告書

生駒市環境マネジメントシステム推進会議(以下「当会議」という。)は、令和4年度における貴市の環境マネジメントシステムに基づく取組に関して、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1.総合所見

1-1 全般的事項

昨年度の監査から、第3次生駒市環境基本計画、第2次生駒市環境モデル都市アクションプラン、生駒市 SDGs 未来都市計画の3つの計画に基づく施策の進捗管理を行っています。市の活動や、市内の事業者を含めた地域の皆さんの活動によって生じる様々な環境負荷を減らすために、継続的に取組を改善し、環境行動を推進するためのしくみとして、新たな「生駒市環境マネジメントシステム」を運用しています。

ヒアリングについて、令和3年度・令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響等により事務局を通じて実施していましたが、令和5年度は当会議が選定した5つの所属に対して、直接ヒアリングを実施しました。今後も各部門のより一層の連携強化を図り、この環境マネジメントシステムを重要な仕組みとして長期的に推進されることを期待します。

1-2 個別的事項

(1) 各計画に基づく環境関連事業一覧

【調査票】令和4年度の実績結果及び令和5年度の実績計画(目標)

それぞれの所属が第3次生駒市環境基本計画、第2次生駒市環境モデル都市アクションプラン、生駒市 SDGs 未来都市計画の3つの計画における具体的な事業を進めており、令和4年度の実績結果及び令和5年度の実績計画を記入していただきました。来年度以降も予定通りに各種事業を進めてください。

(2) エコオフィス、独自施策の実績状況等

【エコオフィス実績状況アンケート】

前年度よりは回答数が多くなりましたが、回答率はまだまだ低いと感じるので、来年度以降の実績時には、より多くの周知を行い、回答率が上がるような実施方法を引き続き検討してください。

1-3 各部署の監査方法について

令和3年度・令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響等により事務局を通じて実施していましたが、令和5年度は当会議が選定した5つの所属に対して、直接ヒアリングを実施しま

した。所属の担当者から各事業について直接説明を受け、委員から適宜質問ができました。事務局による代行でのヒアリングと比べて、取組の進捗状況や今後の計画をより理解できるとともに、改善点も多く見つかるなど、委員が聞き取ることは有意義です。今回、ヒアリングの対象にならなかった所属の方々についても、引き続き日常的な環境活動の啓発をしてください。

2.実施概要

2-1 実施方法及び監査対象

次のとおり、監査を実施しました。

	監査対象とする項目	監査対象所属
書面監査	・環境基本計画、アクションプラン、SDGs 未来都市計画に定めている各事業の取組状況	各計画の個別事業担当所属 24 ヶ所 総務課、防災安全課、市民活動推進課、SDGs 推進課、農林課、商工観光課、男女共同参画プラザ、環境保全課、清掃リレーセンター、地域包括ケア推進課、健康課、管理課、事業計画課、土木課、都市計画課、学研推進室、住宅政策室、建築課、みどり公園課、花のまちづくりセンター、下水道課、浄水場、こども課、子育て支援総合センター
エコオフィス取組状況アンケート	・エコオフィスの取組(全職員に共通した取組)、本来業務における環境配慮、独自施策(各部署の取組)の取組・実施状況	全所属
ヒアリング監査	書面調査票の取組・実施状況についての回答内容	上記の書面監査対象所属のうち、委員が選定した5所属 事業計画課、農林課、住宅政策室、防災安全課、SDGs 推進課

2-2 実施内容

提出された所属毎の書面調査票の回答結果について、委員が選定したヒアリングを実施しました。その後、ヒアリングの内容を踏まえて評価シートへ「評価できる点」「改善を要する点」を記入しました。

・書面監査

個別事業に関する進捗状況等【調査票】を使用。

・ヒアリング監査

①ヒアリング先の選定

書面調査の結果を踏まえ、以下の選定基準を標準として、5つの所属を対象として決定。

<p>選定基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『評価』をAまたはBとしている事業のうち、『令和4年度 of 取組結果』の記載から、特に新たな制度運用・体制整備を伴うことが推察される事業 ・『評価』をCまたはDとしている事業のうち、『課題と改善方針』への具体的対応が求められることが推察される事業 <p>※『評価』の標語は、以下を指しています。</p> <p>A(目標どおり実施できた)</p> <p>B(ほぼ目標どおり実施できた)</p> <p>C(目標の達成には今後さらなる努力が必要である)</p> <p>D(取組んでいない)</p>
--

②ヒアリングの実施

提出された帳票をもとに、各所属へヒアリングを実施。

3. 監査結果

3-1 各所属の監査結果一覧

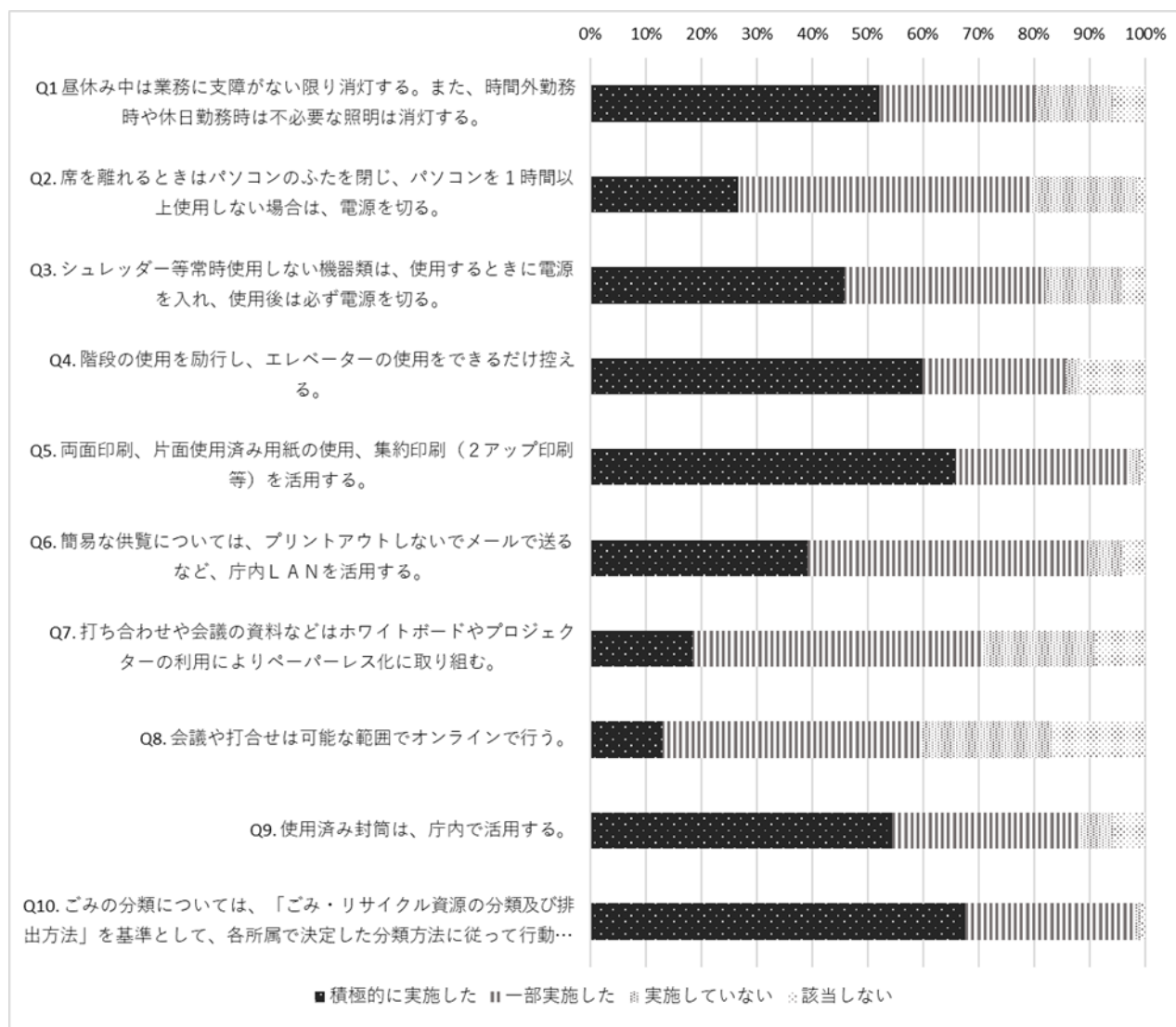
所属名	評価できる点	所見
<p>【事業計画課】 地域公共交通計画に基づく事業の取組実績や今後の計画について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内路線バスの維持に向けた取組をされている。 ・奈良交通との協力・補助は大変だと思うが、たけまる号の運用を合わせて地域の要望に応えるべく努力されている。 ・再編実施まで期間を1年延長し、周知啓発を図ったこと。 ・地元との協議の場「三者協議」を立ち上げたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バス路線の維持は厳しい所もあると思われるので、バス以外での方法をもっと検討されてはどうか。 ・当該路線住民だけでなくより多くの住民が公共交通の利用するよう市民とともに努めることを望む。
<p>【農林課】 竹林の整備・活用を促進するための取組実績や今後の計画について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の現場調査、税の活用等をされている。 ・森林・竹林状況の把握、ボランティアの活用を行っていること。 ・学校給食への食材提供(やや不安定な要素はあるが)アイテムが増えてきている。 ・希望自治会への野菜提供。数は少ないが、超高齢化社会の当市には今後需要が増えると思うので、将来を期待性を鑑みて評価した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林整備に関わる人材の育成を進めてほしい。 ・国有・公有の森林・竹林がなく全て民有林であるので、民間の協力が不可欠である。市民や団体の活用が不足している。
<p>【防災安全課】 生駒市の防災対策について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災対策、ハザードマップの作成・周知をよくされている。 ・風水害発生時を想定した、住民への情報提供を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の情報・その他伝達方法、必要物の備蓄をより一層進めてほしい。 ・広報いこまちにも防災情報は掲載されているが、自治会に加入していない住民に「広報いこまち」は届いていないため周知が不徹底になってしまう。

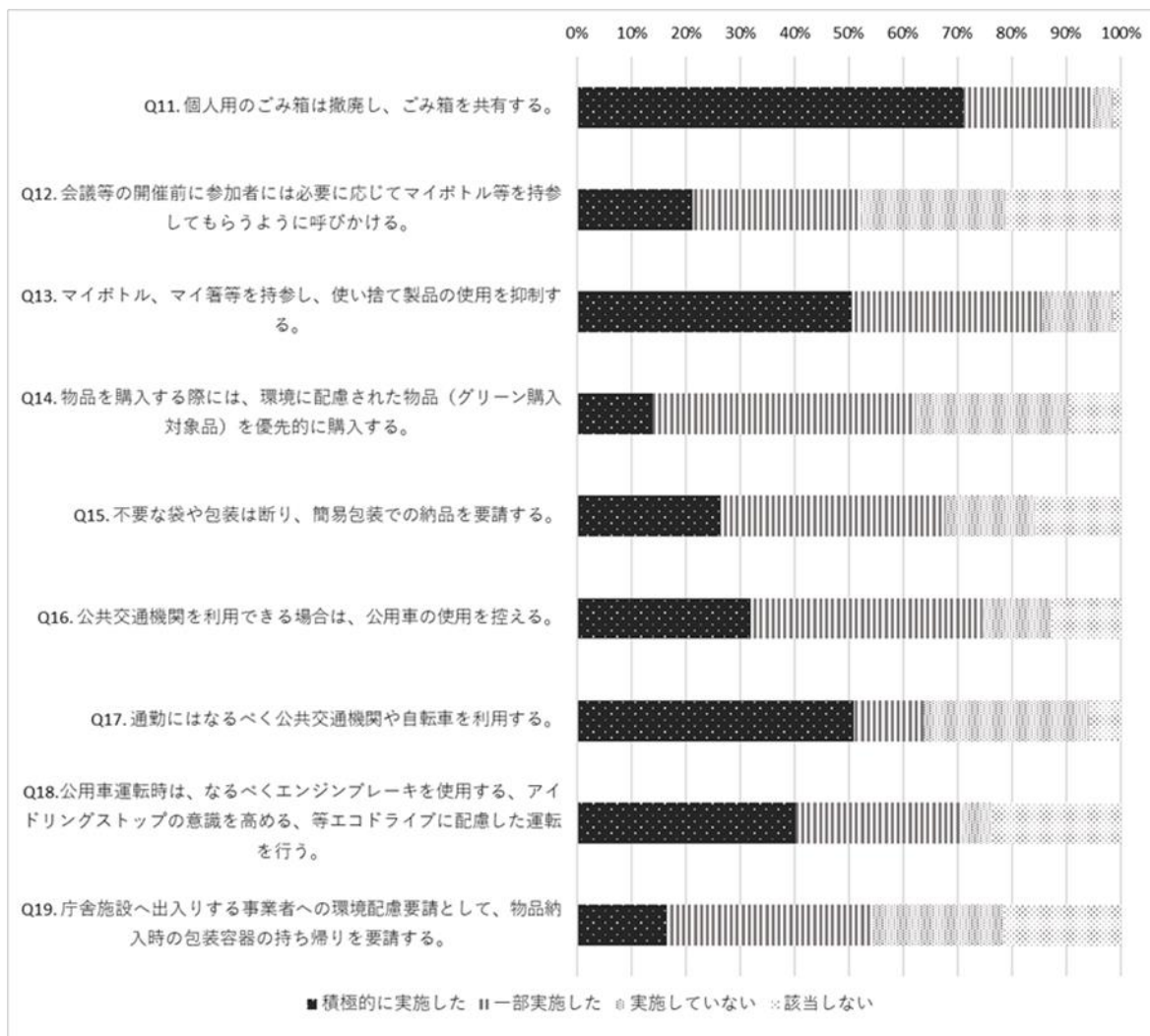
<p>【住宅政策室】 空き家対策の取組実績や今後の計画について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家対策を進め、実績も出ている。 ・空き家調査や相談会の開催は評価できる。 ・「空き家流通促進プラットフォーム」を立ちあげたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い子育て世帯が住みやすく、移住しやすい環境を作る努力が必要。
<p>【SDGs推進課】 全取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs推進や脱炭素、エネルギーの地産地消は、いずれも非常に大きな課題である。限られた職員数でしっかり取組んでいることは評価できる。 ・市民の暮らしにとってのSDGsであるためにも、SDGs デリバリーに期待したい。 ・脱炭素先行地域に選定されたこと。環境モデル都市・SDGs 未来都市の選定と並び、住宅都市生駒のアイデンティティになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素施策を推進することで多くの地域課題を解決できると思う。 ・いこま市民パワー株式会社(ICP)の市民認知度はまだまだ低いので、PR 方法を検討する必要がある。 ・生駒市の脱炭素先行地域事業の推進主体として特別目的会社(SPC)を設立することを知っている市民はほとんどいないのではないかと思う。 ・いこま SDGsアクションネットワーク会員は増加し、活動や連携もすすんできたが、市民の暮らしにどう活かされているのかがあまり見えない。 ・ICP による低炭素なまちづくりのためにも、よりいっそう地産電力増を図ること。価格の安定を図り、市関連施設への電力供給量を増やすこと。 ・公共施設・民間への供給数は微増しているが、家庭への供給数の目標は達成できていない。新たな電源確保や新事業の進展に期待する。 ・このままのペースでは2030年目標は達成が難しいのではないかと思う。率先して成果を出せるよう、有効な対策を考えていただきたい。

4.エコオフィス取組状況アンケート回答結果

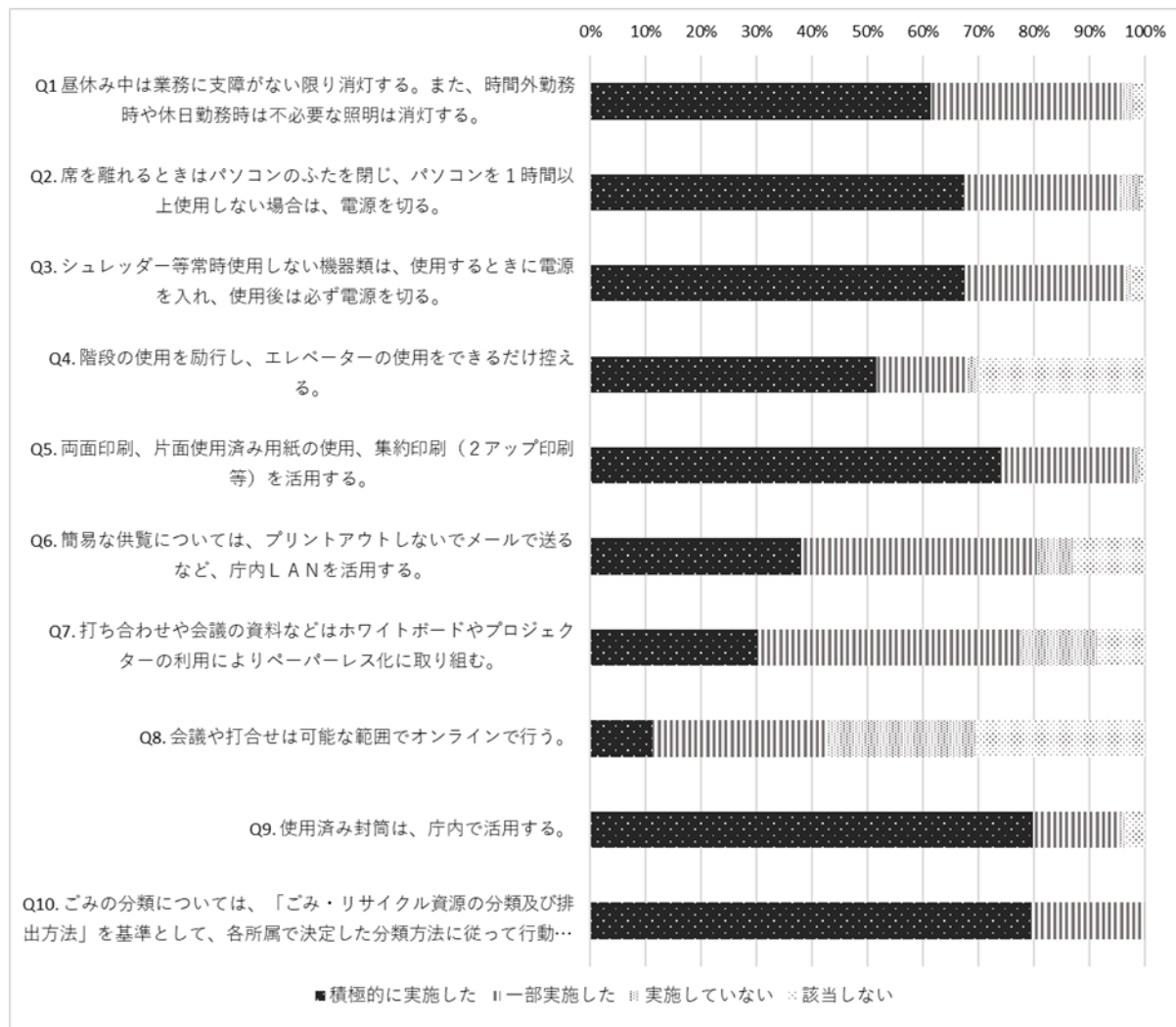
実施期間:令和5年6月7日～6月30日

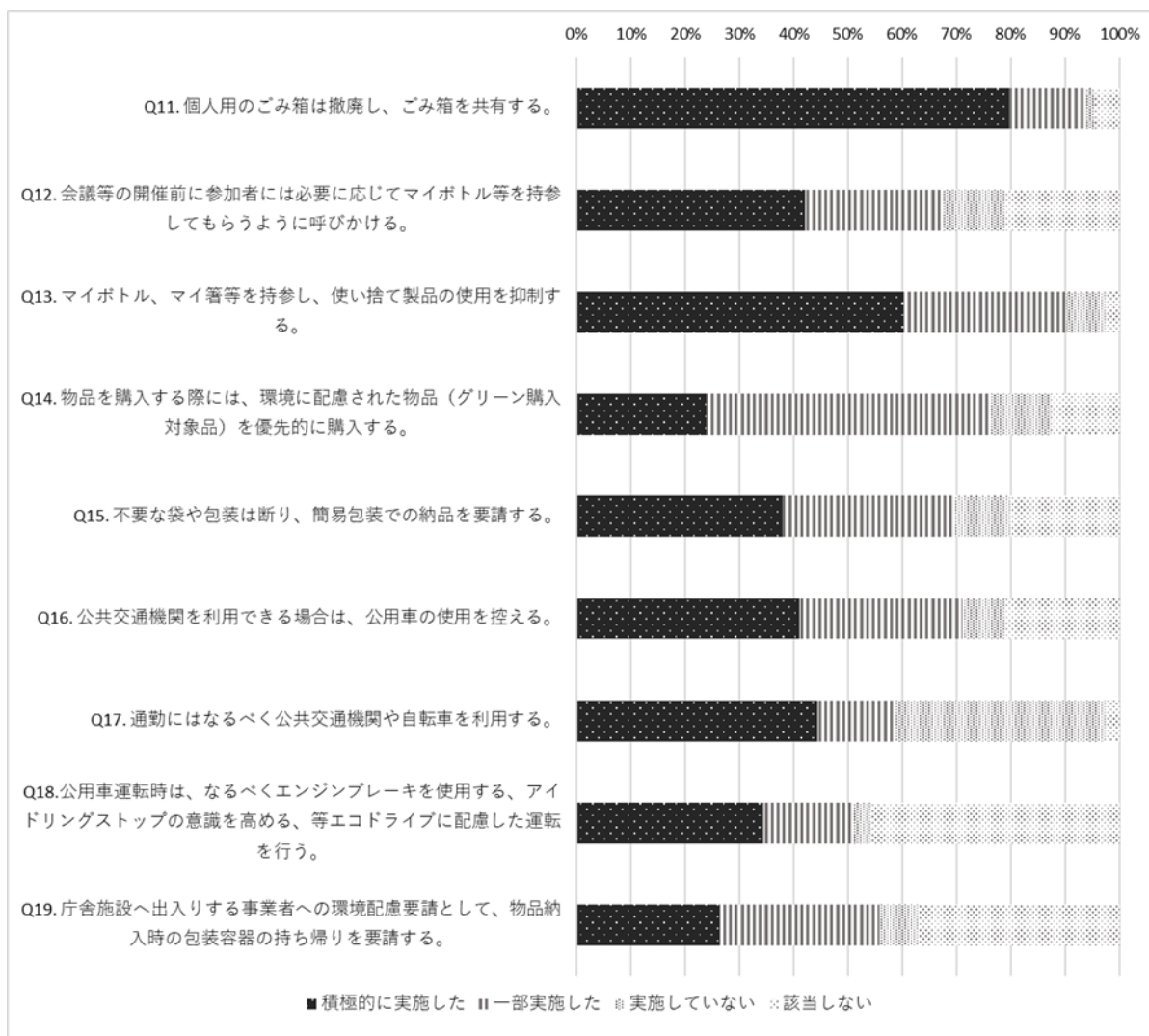
◎全体



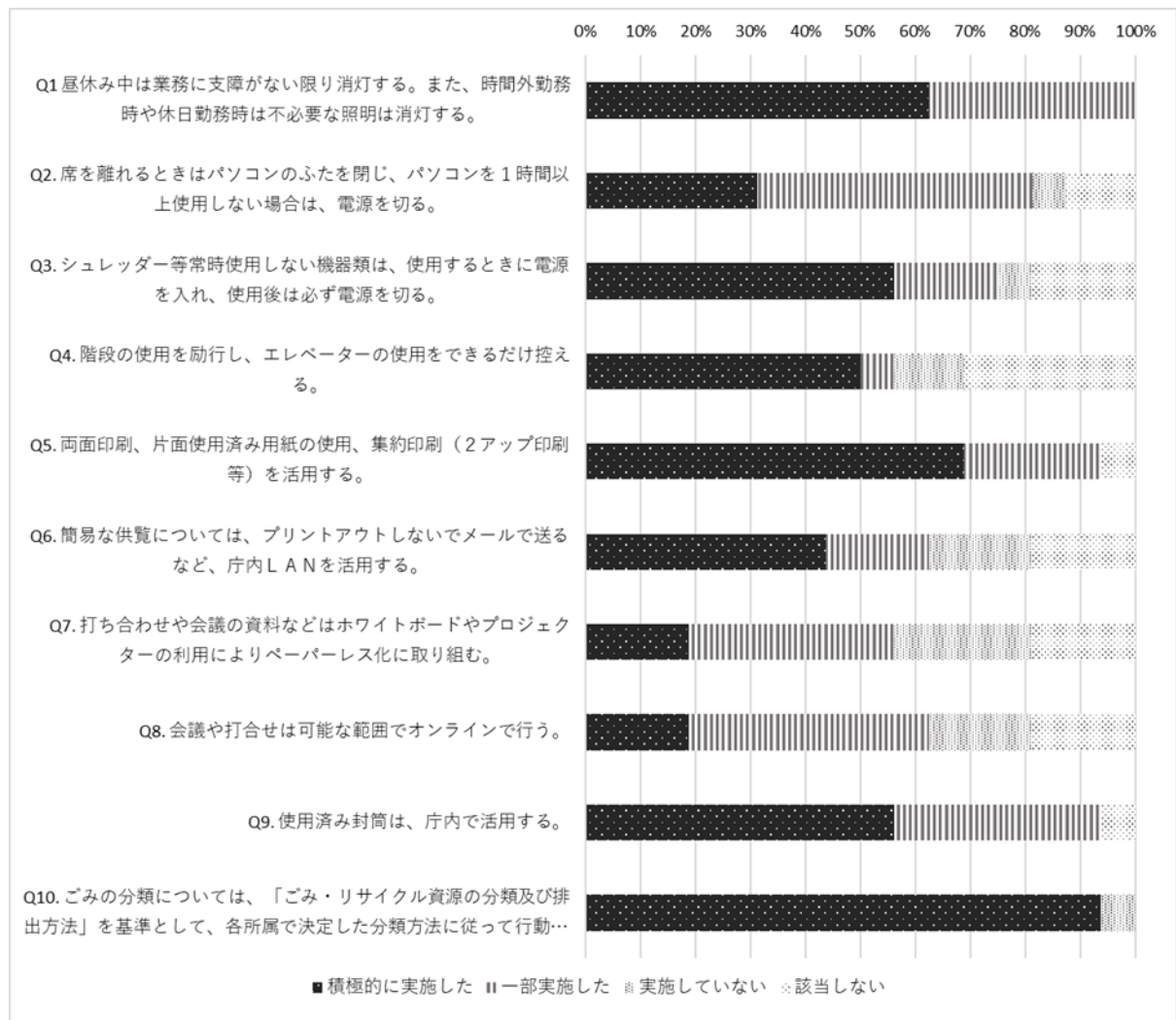


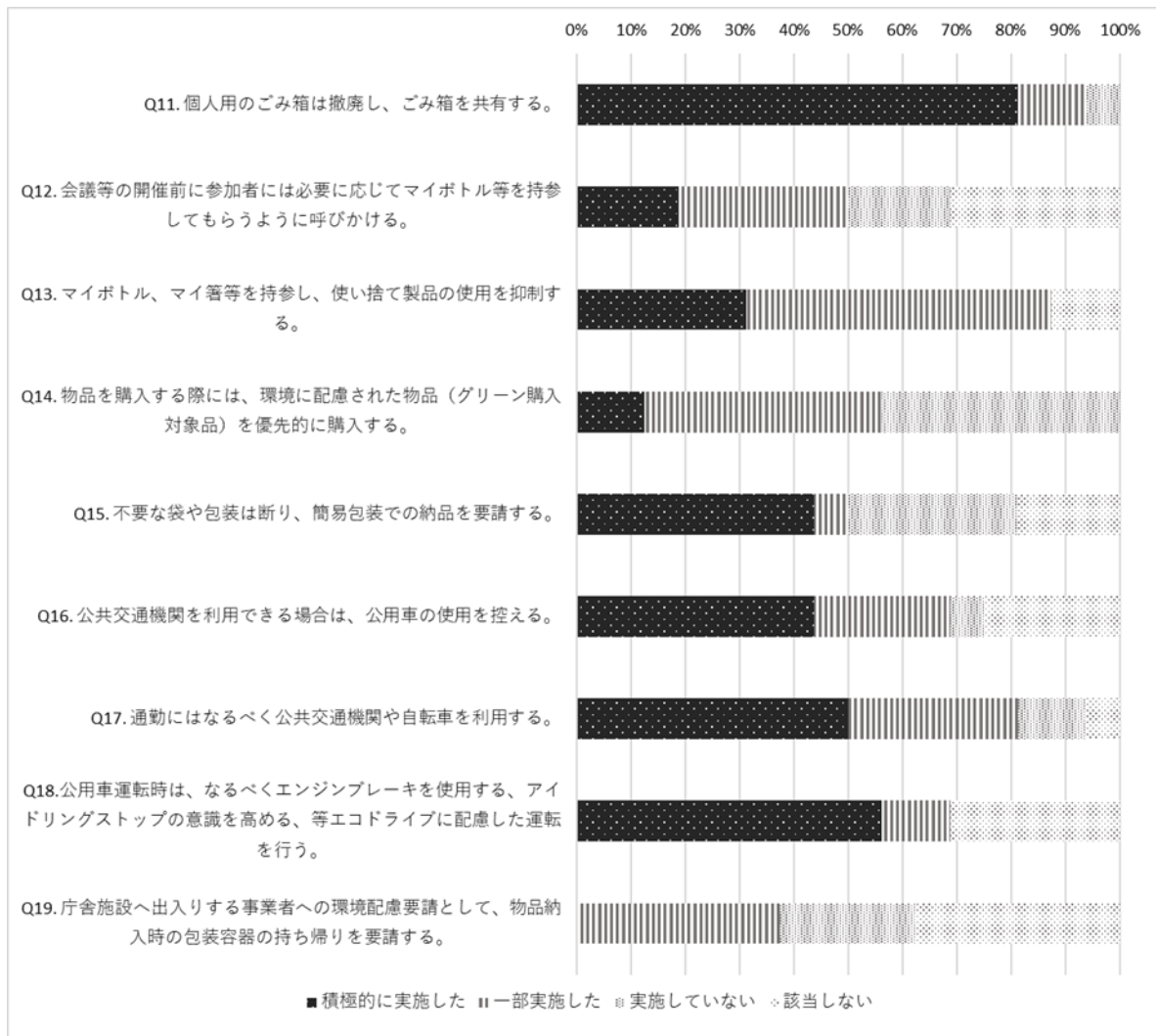
◎幼保・小学校



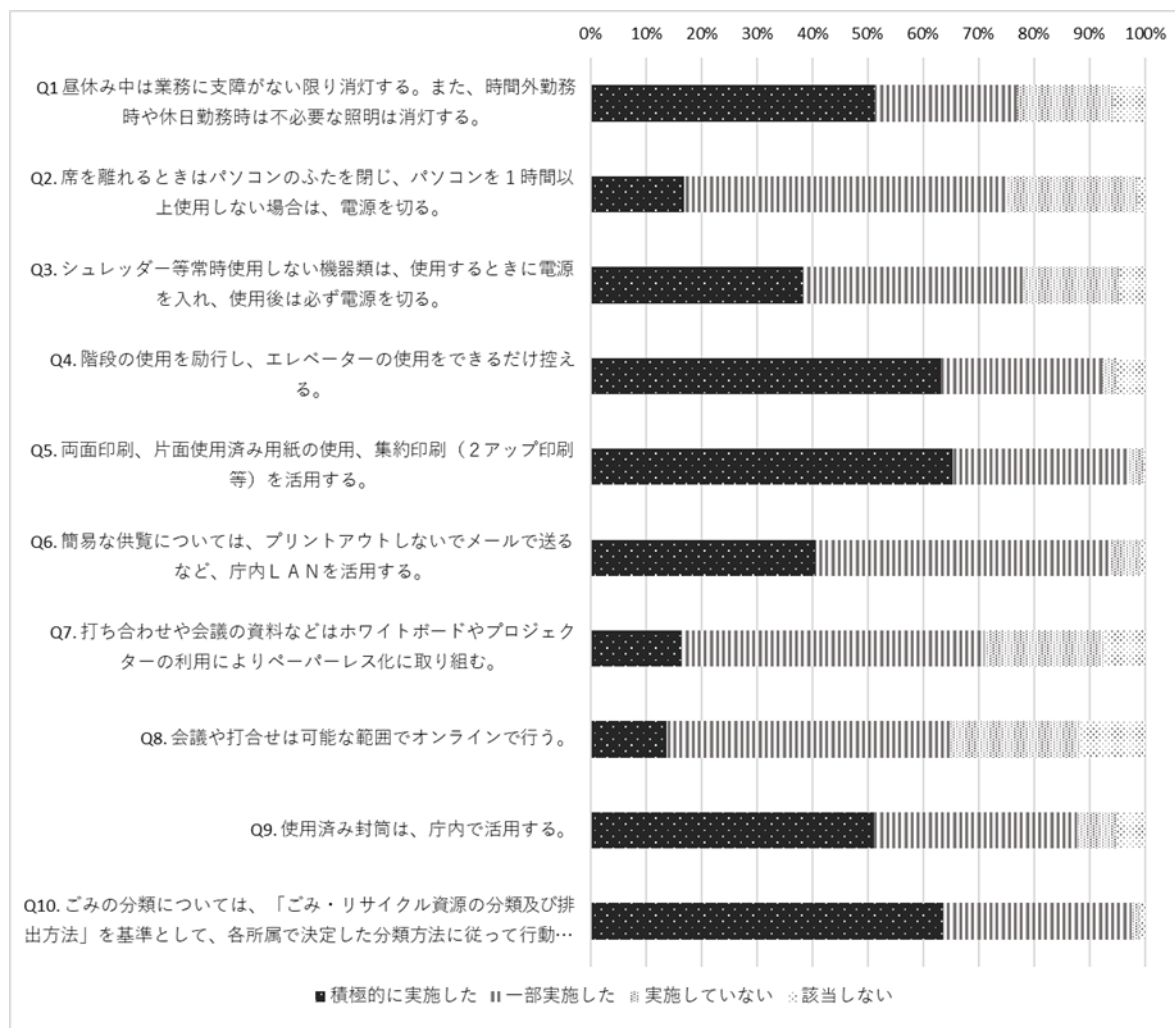


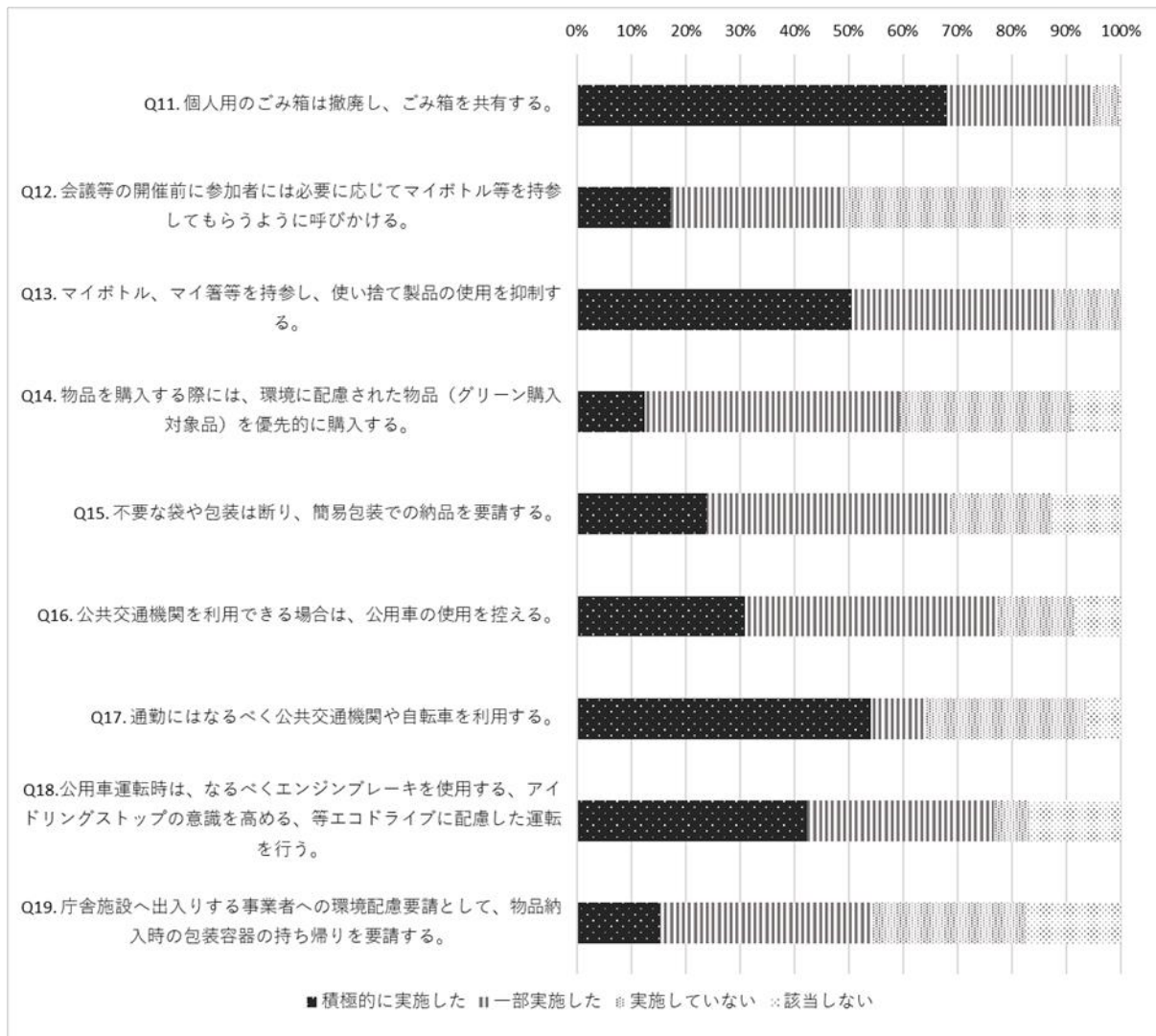
◎指定管理施設・清掃センター・エコパーク





◎その他





Q20:エコオフィスの取組で、Q1から Q19 以外のことを実施されている場合、以下にご記入ください。

- ・公用車を使用する際には、EV 車を使用。
- ・執務室のエアコンで強弱調整できる場合は、弱にする。
- ・残業時間の低減、テレワークの推進。
- ・保育児にエコの取り組みの話をわかりやすく話している。
- ・資料を1部印刷し、回覧したり掲示板に掲示する。
- ・雨水を植物の水やりに使用する。
- ・印刷ミスをした用紙をメモに使用する。
- ・コピー用紙の裏紙を使用する。
- ・下水処理の状況に応じて、機器の間欠運転を実施し、消費電力を抑えるよう努力している。
- ・子ども達の服やカバンのリサイクル推奨。
- ・水や電気の使用節約をシーズンごとに呼びかける
- ・職員の通勤は自動車が多いのでエコカー使用を呼びかける
- ・なるべく昼食は手作りのお弁当を持参することになっています。
- ・幼児とのエコ活動による啓発活動。
- ・エアコン稼働時において、換気をしながらも必要のない窓や扉を閉めるなどの取り組みを行っている。

- ・雨水タンクを利用した花壇維持、紙のリサイクル、ペットボトルのキャップの回収。
- ・給食の牛乳パックの回収時に全てたたんでのビニール袋の節約
- ・ゴミ箱のゴミ袋を使い終わった封筒などで代用している。
- ・エアコンの設定温度を冷房 28.0℃、暖房 20.0℃に設定し、中間期は窓を開けて、省エネ環境配慮している。常に不必要な照明は消灯している。
- ・不要な紙類・段ボール等は、リサイクルに出すようにしている。
- ・会議等の機会を利用して、環境に配慮したエアコンの使用や紙の節約等を職員に呼びかけている。
- ・トイレや廊下の自動消灯設定。校舎屋上のソーラーパネル設置。発電量のモニター掲示。
- ・空調の設定温度を冷房 28.0℃、暖房 20.0℃に設定し、省エネ環境に配慮している。生駒駅南駐車場については、日中は、太陽光が入るため、各階出来るだけ照明を消灯し、夕方に照明を点灯し、省エネに努めている。

Q21:エコオフィスの取組以外で、本来業務における環境配慮や所属で取り組んでいる独自の環境施策があれば、以下にご記入ください。

- ・職員の自主活動(チームエコ)において、子どもや職員が学べる機会を作り、エコ推進を行っている。
- ・ペットボトルや牛乳パック等の廃材を使った手作りの玩具を作成する。
- ・電力使用量をデマンド監視により、契約電力を抑え、消費電力を抑えるように努力している。
- ・資源リサイクル「古紙回収」として、家庭からリサイクル用品(古紙・新聞紙等)を持って来てもらっている。
- ・家庭から空き箱やペットボトルなどを持って来てもらい、子ども達の教材として活用している。
- ・毎週木曜をリサイクルの日として位置づけ、子どもたちが家庭からアルミ缶や空き箱・ペットボトルのふた等を持ち寄り古紙回収として収集している。
- ・職員室のごみ箱の数を減らし、各自が分別したりリサイクルしたりしてごみの量を削減できるようにしている。
- ・絵本等を用いて、子どもたちにも環境について考えたり知らせたりする機会を保育に取り入れ、保護者にも啓発をしている。
- ・夏期のプールや遊びでは、水を大切に扱う。
- ・保育室温度の適正な管理
- ・子ども達が製作で使った画用紙の端紙は、捨てずに再度遊びに使う。
- ・広告誌を箱型に折り、給食時に落とした食べ物の生ごみ入れとして使っている。
- ・水遊びで使った水は、そのまま捨てずに植物の水やりに活用している。
- ・緑のカーテンの栽培活動。
- ・水道やペーパータオルの使用方法を子どもたちや職員と取り組みを共有しながら、みんなで意識できるようにしている。
- ・子ども達にも、しっかりecoの話や実際の活動に取り組んでいる。
- ・施設の運転において、毎年度消費電力量の目標を定め、施設の維持管理者と協議の上運転方法を工夫し消費電力量の削減に努めている。
- ・園内で発生した間伐材等を活用した秘密基地作りイベント
- ・訪問介護など介護支援中のゴミの分別等、資源の再利用について取り組んでいる。
- ・ひょうたんやカボチャを利用してグリーンカーテンを行っている。
- ・各種スイッチ等に「節電」のシールを貼るなどし、職員が節電等を意識するようになっている。
- ・スーパーエコスクール認定以来、学校全体での環境教育の推進とエコ活動の取組継続。

(各委員会活動におけるエコ活動への取組:生徒会『コンタクトレンズケース回収』・学級委員会『エコ活動啓発活動(ポスター・生徒会便り)』・文化委員会『エコへの呼びかけ放送』・体育委員会『チョークの粉回収(体育大会で線引きに利用)』・図書委員会『エアコン設定温度の管理』・整美委員会『雨水の花の水やりへの利用』・給食委員会『食品ロスの削減』)